

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

※ あてはまる□を☑または■で選択してください。

### 1. 学校概要

学校名 豊橋市立二川小学校

種別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
 中学校     中高一貫教育     高等学校  
 教員養成     技術/職業教育  
 特別支援学校     その他（    ）

住所 〒441-3151  
愛知県豊橋市二川町北裏 80

E-mail： futagawa-e@toyohashi.ed.jp

Website： http://www.futagawa-e.toyohashi.ed.jp/futagawa-e/index1.htm

児童生徒数 男子  228  名    女子  214  名    合計  442  名  
児童・生徒の年齢  6 歳  ～  12 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（    ）

### 3. 活動内容

#### ① 郷土の自然を守る活動に取り組む

本年度の3年生の総合的な学習の時間では「防災」をテーマに学習を進めた。

市の青少年センター主催の出張講座「みんなで学<sup>まなぼうさい</sup>防災」では、「校区の地形、歴史から被災の可能性と、想定される被害」について学んだ。その中で、講師の先生から、「二川は、山が近くにあり、川も多い。だから山の災害と水の災害の両方に備える必要がある」ということを学んだ。これは、斜面に住宅地が広がり、新橋川、宮川などの小さな川が流れている地形に由来する。市が公開しているハザードマップを調べてみると、校区内には土砂災害の危険地域があることがわかった。

湖西連峰より、火打坂と呼ばれる道を挟んだ西側に、岩屋緑地がある。岩屋山（標高70m）、大蔵山（標高108m）の二つの山を中心に広がる、自然豊かな里山である。ここは、二川の子たちにとっては、1年生から自然観察をしたり、集めたどんぐりでこまを作ったりして親しんでいる重要な学習の場である。

「山の災害」をテーマに学習を進める上で、子どもたちは、「なぜ岩屋緑地は、大きな台風のあとに行っても、危ない場所にならないのか」ということに疑問をもった。大量の雨にさらされれば、土砂崩れの危険があったり、枯れた木が流されて、普段遊んでいる場所が立ち入りできなくなったりすることもあるかも知れない。しかし、岩屋緑地が危険な場



【協力して伐採した木を運ぶ子どもたち】



所であったことは、こどもたちには記憶がなかった。いつ行っても楽しく活動できる安全な里山なのである。

岩屋緑地の近所に住んでいる子から、こんな意見が出た。

「いつも『岩屋緑地に親しむ会』の方たちがお世話をしている。だからいつも安全で、気持ちのいい場所なんだ」

3年生は、12月に親しむ会の方たちのお世

話により、五平餅づくりを体験  
とても親しむ会の方たちとの

一人の子の発言から、多くの子たちが、災害から山を守るためにどんな活動をしているのかということに興味をもった。そして、「自分たちも山のお世話をしたい」という気持ちがめばえた。

親しむ会の方たちの冬場の仕事として、倒木が予想される枯れ木の伐採がある。そのまま伐採された木々を放置しておく、災害の原因になることもある。1月22日、3年生の子たちは、こうした伐採後の木を安全な場所に運搬する仕事の手伝いをした。

直径30cmもある丸太を子どもたちが運ぶのは、とても難しい仕事であったが、親しむ会の方たちのご指導で、力を合わせて運ぶためのロープのかけ方を学び、グループで協力して運ぶことができた。

普段からこの場所で遊んだり学習したりしている緑地の自然は、親しむ会の方たちが尽力していることで保たれているということを知り、事後の感想では、感謝の気持ちを綴っている子が多く見られた。

これからも郷土の自然に親しみ、守っていききたいという気持ちをもつことができた。

大きな木を運ぶときは、前の方をしばっていき合わせて運びます。(いつもは)すべて親しむ会の人たちがやってくれます。だから、岩屋緑地はいつもきれいで、木がたおれたりしてなくて、安全。(3年女子の感想より)

## ②再生可能なエネルギーについての学習

5年生の社会科「自動車をつくる工業」の学習では、販売店の協力を得て、子どもたちは、燃料電池車を試乗する機会を得た。エンジンを動かしても「水しか排出しない」車である。

社会科での学習と並行して、総合的な学習の時間では、エネルギー資源に関する学習を進めた。自動車工業についての学びを進めると、我が国の経済を支える重要な産業であると同時に、「化石燃料」の価値についての認識や将来に対する不安も深まっていく。そんな中、ガソリンの値段が急激に上がる時期があり、子どもたちの中には、「石油を使わないエネルギーはないものか」と考える子が出てきた。

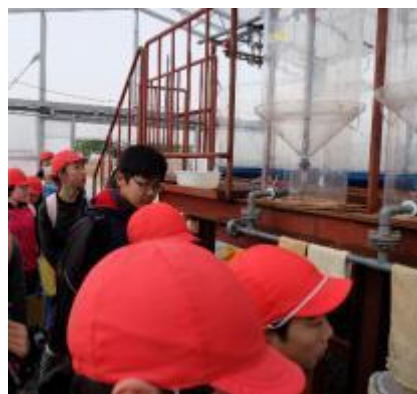
9月の自動車工場の見学の際、子どもたちは、隣接するメガソーラー発電所や風力発電の巨大な風車も併せて見学をした。さらに1月には、バイオマスパークの見学を行った。

バイオマスパークでは、下水の処理工程で発生するメタンガスを発電に利用する研究をしている。

子どもたちは、発電だけでなく、そこで発生するCO<sub>2</sub>についても、様々な利用法を考えていることに興味を示した。

2月には、学校からほど近いシンフォニアテクノロジーという企業に下記のような最新のエコ技術を見学に出かけた。

- ①工場内の排水を利用しての小型水力発電システム
- ②太陽光パネルを掃除し、発電効率を上げるロボットの開発、実用化
- ③巨大な電磁石によって鉄と他の金属を仕分けするシステム(少ないエネルギーでたくさんの仕事ができる)
- ④排ガス測定装置の開発、販売(他国に輸出している)
- ⑤ごみの分別など、工場全体で身近にできることからの取り組み



【バイオマスパークの見学】

人間、今だけいい思いをしようとして、どんどんCO<sub>2</sub>を出してしまうのはいけないと思いました。…人間のためだけでなく、地球上に住んでいるすべての動物のことを考えないといけないと思いました。(5年男子の感想より)



【シンフォニアテクノロジーで説明を受ける子どもたち】



【風力発電装置】

エコに対して最新の技術で取り組んでいる工場でも、ごみ分別のように誰もが住民として取り組むべきことに真剣になっている事実を知らされ、子どもたちは自分たちにも大切な資源を守っていくためにできることがあるという事実について再認識することができた。

身近な工場の見学を通して、自分の身近な人がエコに対して努力している事実を知り、自分たちもできることを地道に取り組んでいこうとする気持ちの高まりが見られた。

…水を必要な量だけ出す。電気は使う部屋だけ使う。風呂の湯を再利用する…などは、特別なことをしなくてもできるのでいいと思います。  
(5年男子 環境学習のまとめより)

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )